



遠藤れい子ひまわりレポート

○遠藤れい子事務所 〒940-0052 長岡市神田町3-1-3
☎ 0258-32-1741 fax 0258-32-6443



長岡市民も声をあげる。「トランプ大統領はイラン攻撃を止めよ！」 大手通り交差点で「戦争反対！」スタンディング

4月2日16時から、大手通交差点で「トランプ大統領はイラン攻撃を止めよ！」と6人がスタンディング。高校生や若者が関心を寄せ、新入社員が2人の男性は「戦争はダメです」と熱いエールをくれました。
自転車で立ち止まった男性は、「自民党支持だが、戦争は絶対ダメだ」と20分も自分の熱き思いを話していききました。
行動は変化を生む！
4日は10人が参集しスタンディング。5月3日の「長岡憲法集会」(13時、山本五十六記念公園で開催予定)へのメッセージボードに、自分の思いを書きこんでもらいアピールする取り組みも。
光る手づくりボードは道路を隔てた側からも目立っていました。
この日は自動車からも手を振ったり、声を出し



(2枚の写真は4月4日に撮影)

(4月2日、4日、7日と大手通り交差点で「戦争やめよ」アピール行動)

て応援してくださる方もいました。
学生さんから「一緒にアピール行動したい」と申し出あり
学生さんから「一緒にやりたい」と申し入れがあり、4月8日18時30分からスタンディングすることが決まりました。
平和な世界をめざして、これからも皆さんと一緒に声をあげましょう。

ホントに大事なことは書いてない=新潟県作成の「原発リーフ」を批判する…その②

県作成「原発リーフ」の記述 (防災対策編)

周辺に住んでいる人たちはどうしたの？

当時の避難計画では、原発から半径10km圏の住民の避難を想定していた。しかし、原発の状況が悪化するにつれて、避難指示の範囲は最大で半径20km圏に拡大しました。

避難時に問題は起こらなかったの？

避難指示の範囲が拡大し、住民は何度も避難を行うなど、大きな負担になるとともに、受け入れ先の調整も困難となりました。

また、入院患者などは、あらかじめ避難先や移動手段を決めていなかったため、避難は困難を極めた。

●安定ヨウ素剤は、県や市町村が住民に配布や服用を指示することとされていたが、国の指示のタイミングが適切でなかった。

遠藤れい子の笑顔でファイト

書いてない避難の問題。避難生活の困難さ

避難指示の範囲は20kmを超えていた！

●大震災直後の翌12日には原発から半径20kmの地域は避難指示区域に。4月22日には警戒区域(原則立入禁止)になる。さらに、20km以遠で年間累積線量が20mSvに達するおそれの地域は計画的避難区域に。高線量区域に避難した住民も多かった。

●大型バスの中で亡くなる患者。「困難を極めた」どころか、災害関連死は1704人にも。

●避難してからの生活はどうなった？

長年住み慣れた地を去り、仕事を失い、家族がバラバラに暮らすなど、生活は困難を極めた。

●国も福島県知事も、安定ヨウ素剤服用の適当な時間帯に服用指示を出さなかった。備蓄はあったが住民の多くは服用できなかった。

お知らせ

ON STAGE 遠藤れい子と仲間たち
4月18日(土) 開会…2時(開場…午後1時30分)
(会場) 長岡市立劇場小ホール(会費)1,000円